

プロフィールシート

プロフィール



- ・所属 三重大学名誉教授・地域イノベーション学研究科特任教授
- ・名前 朴 恵淑(パク ケイシュク; Hye-Sook PARK)
- ・略歴 1978年 韓国梨花女子大学校師範大学社会生活学科卒業
- 1983年 韓国梨花女子大学校大学院社会生活学科 修士課程修了
- 1987年 筑波大学大学院地球科学研究科 博士後期課程修了
(理学博士; 地理学・水文学)
- 1987～88年 筑波大学大学院環境科学研究科文部技官
- 1988～91年 アメリカ合衆国テキサス州ヒューストン大学 地球科学研究科ポスドクトラル・フェロー
- 1991～93年 筑波大学大学院地球科学研究科外国人研究者
- 1993～95年 三菱化学生命科学研究所 特別研究員
- 1995～2000年 三重大学人文学部助教授
- 2000～現在 三重大学人文学部教授
- 2007～11年 三重大学学長補佐(環境担当)
- 2011～15年 三重大学理事・副学長(企画・評価・環境・国際交流・男女共同参画担当)
- 2015～2019年 三重大学 地域ECOシステム研究センター長
- 2019～現在 三重大学北勢サテライト「SDGs研究会」代表
- 2020～現在 三重大学名誉教授・地域イノベーション学研究科特任教授
- ・専門分野 環境地理学(大気汚染・地球温暖化)、国際環境協力、ESD、SDGs

研究・技術シーズ名

四日市公害から学ぶ「四日市学」とESD-SDGsの連携によるアジアの国際環境協力

主要キーワード

- ・四日市公害
- ・四日市学
- ・ユネスコ持続可能な開発のための教育 (UNESCO ESD)
- ・国連持続可能な開発目標 (UN SDGs)
- ・アジアの国際環境協力

研究・技術シーズ概要

四日市公害から学ぶ「四日市学(YOKKAICHI Studies)」とESDとSDGsの連携によるグローバル人材育成と持続可能なアジア創生

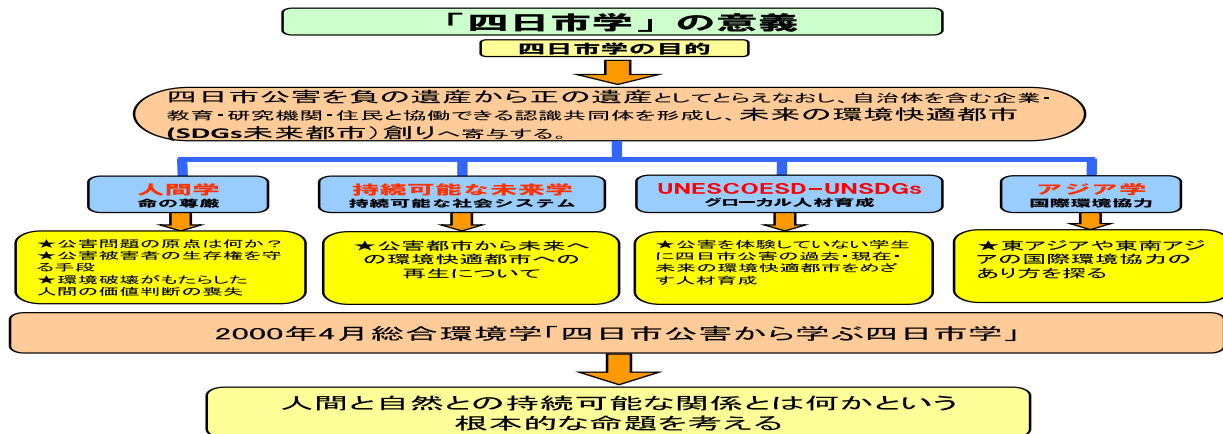
四日市公害から学ぶ「四日市学」は、1970年代の日本の高度経済成長期を支えた1960年代の四日市コンビナートからの大気汚染による四日市ぜんそくによって住民の命が犠牲となり、伊勢湾の水質汚濁が加わり、海と陸の生態系が破壊された四日市公害の過去を知り、現在を見直し、未来像を提案するための学問横断的総合環境学である。また、地域に根ざし、世界へ通用するグローバル人材育成のため、ユネスコが推進している持続可能な開発のための教育(ESD; Education for Sustainable Development)の有効なツールとなる環境教育学である。さらに、2015年9月の国連サミットで採択され、2030年までに全世界が取り組むべき17の目標からなる国連持続可能な開発目標(SDGs; Sustainable Development Goals)を基本軸とする、環境・経済・社会との調和からなる持続可能な地域創生を図るための科学的知見のプロットホームでもある。

SDGsは、2015年9月の国連持続可能な開発サミットにおいて全会一致で採択された、2016年～2030年までに発展途上国、新興国及び先進国のすべての国が取り組む国際的な目標である。SDGsは、「誰一人取り残さないー No one will be left behind」を理念として、国際社会が持続可能な社会を実現するための重要な指針となり、行政・企業・学校・市民など全てのステークホルダーが連携するグローバル・パートナーシップが求められている。SDGsは、持続可能な開発の重要な要素として、5つのP、「人間; People」「地球; Planet」「繁栄; Prosperity」「平和; Peace」「パートナーシップ; Partnership」を挙げている。SDGsは、持続可能な世界を実現するため、17の目標及び169のターゲットから構成されている。

産業ニーズ・応用シーン

四日市公害から学ぶ「四日市学」の意義

「四日市学(YOKKAICHI Studies)」は、次の4つの側面からアプローチする学問である。(1) 四日市公害は解決済みの過去の問題ではなく、現在進行型の環境問題であり、命の尊厳や自然は誰のものかを問う「人間学」(Human Science)である、(2)過去の公害から未来の環境保全都市へ転換をはかるため、環境と経済との調和を図る持続可能な社会システムを提案する「持続可能な未来学」(Sustainable Science)である、(3) 四日市公害を経験していない次世代へのグローバル人材育成の「UNESCOESD-UNSDGs」ツールである、(4) 環境の世紀・アジアの世紀といわれる21世紀において、アジア諸国の大規模産業団地で見られる、かつて日本の4大公害の複合型ともいえる公害・環境問題において、国際環境協力を行う「アジア学」(Asian Science)として位置付けられる。



展開が期待される分野・領域

農業 林業 水産 畜産 鉱業 建設 食料品 繊維製品 木製品 パルプ・紙 化学品 医薬品
化粧品 石油製品 プラスチック ゴム製品 革製品 鉄鋼 非鉄金属 金属製品 セラミック 炭素系新素材
新素材(その他) 機械 工作機械 自動車 二輪車 航空宇宙 電気機器 精密機器 光学機器
産業用機器 ロボット ファクトリーオートメーション 音響機器 半導体 電子部品 電池 コンピュータ モバイル
AR/VR エネルギー 資源 情報通信 衣料 装飾 インターネット 情報処理 電力 ガス レーザー
光 セキュリティ 住宅 材料分析 画像処理 音声認識 バイオ 省エネ 水 放送 広告 運輸
倉庫 郵便 卸売 小売 交通 e-コマース 金融 保険 不動産 物品賃貸 宿泊 飲食店
生活関連サービス 観光 コンテンツ(映像等) 娯楽 教育学習支援 医療 ヘルスケア 福祉 介護 衛生
リサイクル MaaS SaaS 都市開発 インフラ 環境 印刷、出版 伝統工芸 アート 音楽 デザイン
その他(国際環境協力、ユネスコ持続可能な開発のための教育(UNESCO ESD)、国連持続可能な開発目標(UN SDGs))

その他PR事項： (産学共同実績 等) (研究・活動代表; 朴 恵淑)

(1) 中部電力(株)との協働事業によるエネルギー環境教育「大学生及び地域の環境リーダー(小・中学生・三重県地球温暖化防止活動推進員)を対象としたエネルギー環境教育; SDGs-ESDの発展的展開」(平成20年度～現在)

- ① 夏休み自由研究～小・中学生対象のエネルギー環境教育(川越火力発電所見学・テラ46でのエネルギー環境教育・四日市公害と環境未来館での壁新聞・報告書作成)
- ② 発電施設への見学会～大学生・大学院生・留学生対象(浜岡原子力発電所見学)
- ③ 成果発表会(参加者による報告書作成・発表会)

(2) トヨタ自動車(株)・伊勢新聞社との協働事業による「トヨタ・ソーシャル・フェスin松名瀬」での環境学習・海岸クリーンアップ活動(平成20年度～現在; 年2回実施、年間約600名以上参加)

- ① 三重大学生・三重中高生による松名瀬干潟での生物多様性学習
- ② 住民との松名瀬干潟周辺の海岸クリーンアップ活動

(3) ホンダ(本田技研工業(株))との協働事業による東南アジア10カ国からの参加者への「四日市公害から学ぶ四日市学・SDGs講義・ワークショップ実施」(平成30年度～現在)

- ① 四日市公害から学ぶ「四日市学」講義
- ② ESD-SDGsの連携による持続可能なアジア創生の講義・ワークショップ